

令和元年度 第1回小平市子ども・子育て審議会 会議要録

第1回 小平市子ども・子育て審議会	
日時	令和元年5月22日（木） 午後3時30分～5時30分
場所	市役所6階大会議室
出席者等	子ども・子育て審議会委員・・・13人（欠席3人） 傍聴人・・・3人
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・小平市子ども・子育て審議会委員名簿 ・（仮称）第二期小平市子ども・子育て支援事業計画の策定方針について ・平成31年度子ども家庭支援センター事業計画について。 ・学童クラブの現状について ・保育事業の現状について ・公立保育園の運営のあり方に関する方針＜改定版＞（素案）について ・公立保育園の運営のあり方に関する方針＜改定版＞（素案） ・令和元年度小平市子ども・子育て審議会の開催日程について
議事	<ul style="list-style-type: none"> （1）小平市子ども・子育て審議会の審議内容等について （2）平成31年度子ども家庭支援センターの事業計画について （3）小平市子ども・子育て支援に関するニーズ調査報告書について （4）学童クラブの現状について （5）保育事業の現状について （6）公立保育園の運営のあり方に関する方針＜改定版＞（素案）について （7）その他
上記内容についての意見・質疑応答	
（1）小平市子ども・子育て審議会の審議内容等について	
	特になし
（2）平成31年度子ども家庭支援センターの事業計画について	
	特になし
（3）小平市子ども・子育て支援に関するニーズ調査報告書について	
委員	内閣府の手引きについてもう一度教えてほしい。

令和元年度 第1回小平市子ども・子育て審議会 会議要録

事務局	内閣府から「第二期市町村子ども子育て支援事業計画における量の見込みの算出のための考え方」という文章がでている。自治体のニーズ調査で出た結果について、どういった分析をするかといったことが定められている。それに基づいて分析・策定した計画資料を委員の皆様にお示し、検討して頂くことになる。
委員	私もこちらのアンケートが偶然送られてきて答えた。内容がとても分厚くて、回答も一生懸命考えて答えた。同じようにたくさんの方が答えていると思うので、冊子だけでなく、市民の皆さんが簡単に見れるように公開する予定はあるのか。
事務局	アンケートの結果を踏まえて新たな計画を策定することになる。冊子は、市役所の市政資料コーナーで閲覧できるほか、小平市ホームページでも公開している。
委員	答えることで関心を持った。皆さんがどう考えているかを知ることができると、より関心が深まると思った。
委員	このニーズ調査報告書が生かされるのは、子ども・子育て支援事業計画ということで間違いないか。計画の対象は18歳未満の子どもとなっているが、調査の対象が小学校6年生までとされている。中学生は調査の対象になっていないのは、何か理由があるのか。
事務局	以前の次世代育成支援行動計画では、18歳未満の方を対象であったが、子ども・子育て支援事業計画は、子ども・子育て支援法に基づき、対象が、小学校6年生までとなった。
(4) 学童クラブの現状について	
委員	学童クラブの開設の話で八小と十二小の児童が多いからということだが、登録児童数を見ると、十一小学童クラブ第一も100人を超えている。どのように対応する予定か。
事務局	十一小学童クラブ第一は、条例上の定員60人に対して、登録児童数が114人となっているが、実際は第一クラブ棟で74人、学校に一部屋借りて40人と、分けて保育している。同様に、一小学童クラブ、二小学童クラブ、八小学童クラブ、十二小学童クラブについても、部屋を借りて分けて保育するというので、定員超過を回避している。
委員	計画の進捗状況だが、確保方策に対して、確保数が上回っているのが3年間続いているということで、児童の受け入れ箇所を増やして対応していただいているのが、ありがたいなと感じた。

令和元年度 第1回小平市子ども・子育て審議会 会議要録

(5) 保育事業の現状について	
委員	幼児教育無償化について、児童発達支援事業についてはどうなっているのか。
事務局	障がい者支援課が現在行っている障がい児の事業も、今回の幼児教育無償化に該当するので、今後支給等の内容について検討を進めているが、現在はまだ準備段階である。
委員	10月にはまだ無償化にならないということか。
事務局	開始時期は10月である。
委員	幼児教育無償化の話だが、非常に煩雑で分かりにくく、実際に制度を始めるにあたっては、対象となる方達にわかりやすい方法での周知は考えられているのか。
事務局	現在、国が示した内容に合わせて制度を細かくつめているところである。しっかりと整った段階で、可能な限り市民向けの説明会等も開いて、幅広く、細かく説明したいと考えている。
会長	幼児教育の無償化については、国の制度設計も複雑で、どうしても難しい話になってしまう。小平市としてはしっかりと把握しながら、保護者の方達に分かりやすく説明していただきたい。ただ、国の動向に影響を受ける取り組みである。
委員	待機児童対策について、市の東部でだいたい4割の待機児童があるということだが、西部と東部で需要と供給のバランスが崩れていると思う。対応策として、東の地域に保育園を増やすという事もあると思うが、保育ステーションを作って、既存の保育施設があるところに駅から送っていくという取り組みについてはどう考えているか。
事務局	東部に待機児童が偏っている状況であるが、まだ依然、中部・西部も待機児童はいる。そのなかで少しずつ保育施設で、0歳児等に空きは出てきているものの、スペースが余ったりとか、保育士の余剰人員が出ているというところまでには至っていない。東の地域からバスなどを走らせ、空いている保育施設を使ったらどうかという考え方もあると思うが、今のところ使えるところはない。ただ、実施している市もあると思われるので、そういった所の動向を見ながら研究していきたいと思っている。

令和元年度 第1回小平市子ども・子育て審議会 会議要録

委員	毎年、需要と供給のバランスは崩れていると思うが、その都度対策していると、その場限りの対策になってしまう。やるかやらないかということの研究を進めていったほうがいいのではと思う。
事務局	待機児童対策であるが、長期的、中期的、短期的に複数の視点で考えている。長期的には、人口推計の国勢調査の数字を見ながら、大きな流れを把握し、さらに、5年毎の子ども・子育て支援事業計画で保育ニーズの動向を推測する。そして、毎年、地域ごとの保育ニーズの顕在化と、保育施設の定員数とのバランスを見ながら対応を行っている。
会長	待機児童の解消ゼロというのは、本審議会に託された課題でもあり、この事業計画自体も、国の方針を踏まえて、そこをモットーにしているというのは事実である。出来る限り状況に応じた柔軟な対応というのはこれからも市が求めていくべきだとは思う。ただ一方で、子ども・子育て審議会は「子育て」という名称だけでなく、「子ども」という名称もついているように、保育の質という観点からどのような施策が妥当なのか、その辺も視野に入れながら、審議会の中で一緒に検討させていただけるとありがたいと思う。
(6) 公立保育園の運営のあり方に関する方針<改定版> (素案) について	
委員	方針の位置づけについて、「改定においては、上位計画及び小平市子ども子育て支援事業計画と整合性を図ります」とあるが、上位計画はどのようなものか教えてほしい。
事務局	上位計画については、小平市の最上位に位置づけられる長期総合計画を想定している。
委員	今、障がいのある子どもの子育てをしているが、保育園の案内を見ていると、障がい児保育とうたっている保育園は私立保育園で、私の子どもが生まれた時は2園しかなく、電話で問い合わせると「公立さんも良いですよ」と結構言われた。そのような流れの中、公立保育園が減ると障がいのある子の行き場所が減ってしまうのでは、と心配している。マイノリティの少数の子ども達について配慮をお願いしたい。
事務局	公立保育園の方で障がい児、あるいは傾向児といったお子さんを多く預かっているとの話であったが、実際には公立保育園のみならず、私立保育園でもかなりの人数を受け入れている。それを後押しするような形で、運営費の補助等も行っているところである。

令和元年度 第1回小平市子ども・子育て審議会 会議要録

委員	障がい児保育については、障がい児・健常児、関係なく一人一人の子ども達にいかに向き合っていくかという、保育の質を目指している。公立私立問わず大事にしていかなければいけないというところは、園長会でも話している。実際に巡回相談は、市もバックアップしていただいている事業で、利用件数が多い。私の感覚で言うと、私立保育園が障がい児を受け入れているというイメージはないが、引き続き私立保育園協会の方でもしっかりとアピールしていきたいと思う。
会長	実際に、民間も多く受け入れているというのは私も承知している。ただ、アナウンスレベルでしっかり明記されていないというところが、今の発言の中で1つ課題として見えているのかもしれない。その辺は公立私立問わず、担当課とも相談しながら、障がいを持っているお子さんの支援が充実していったほしい。
委員	公立保育園の運営のあり方に関する方針には、公立保育園の役割や良い点だけでなく、私立保育園についても記載されているということで、とてもうれしく思う。これから少子化ということで、小平市の子ども達がどんな風に地域で育っていくのか、公立私立問わず、保育園幼稚園小学校問わず、皆で考えていかなければいけないところがある。公立保育園の運営のあり方についても、ただ単に公立保育園をどうするかだけでない視点で、しっかりその辺も踏まえて、ここで審議してやっていけるということもうれしく思う。市民の皆さんの声もしっかり聞いて反映させていくことが大切と改めて感じたところである。
(7) その他	
	特になし